

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

75

「大きな岩が重なり合
い、岩と岩との隙間が暗
い穴になっていて地の底
から吸い込まれそうだ。
恐ろしい場所に来てしま
った」。初めて黒岩を
登った時の印象である。
陸前高田市立横田中学
校の二年生の頃であつた
ろうか。当時、美術と体
育を教えてくださった先
生に引き連れられて五葉
山登山をした時のことだ
ある。六月の第一週の日
曜日が五葉山の山開きの
日で、その日は天気恵
まれていた。

先生の後に付いたのは
私を含め四人の同級生で
ある。横田から登山口の
ある住田町上有住の中坪
まではバスで、そこから
先は自分の足で進む。今
思うときと黒岩コース
を登ったのだらう。大き
な岩と岩の隙間の深い穴
に落ちるのではないかと
ビクビクしながら登っ
た。

いであつた。
帰りは大船渡市側の赤
坂峠に出た。下山時には
ガスが出て天候は一変
し、周囲の景色は見えな
かった。赤坂峠からはバ
スを乗り継ぎ帰路に就い
た。

思えば私の人生もまた

戻る決心をした。昭和六
十三年三月のことだっ
た。貨物船、鮎石・自動
車専用船などに乗って海
上サリーマンとして十
六年働いた。
横田に帰ると、設立間
もない「横田地域農村景
観を考える会」に入れら
れた。

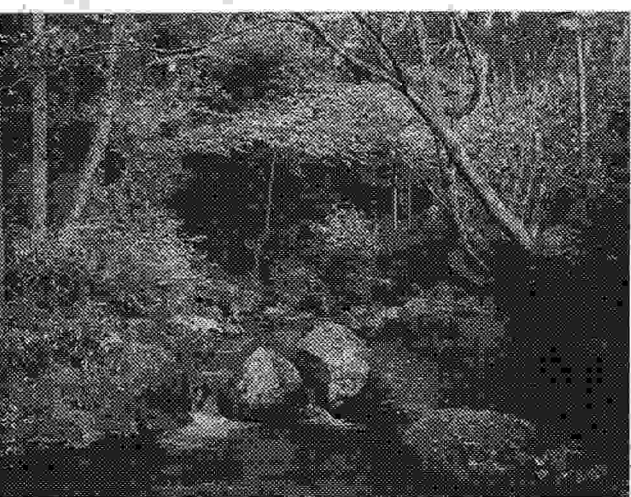
「と教えてくれたこと
で、進んで人を案内する
ようになっていくのかも
知れない。
まっすぐに急ぎ足で結
果だけを気にしながら歩
いてしまうと、見過ご
し、失いかけているもの
に気がつかない。「まわ
りみち」をすることで初
めて知ることがある。風
景や景色のすばらしさだ
保存会理事。

「まわりみち」に思うこと

陸前高田市横田町 紺野 悟

「まわりみち」のよう
に思える。高校卒業後貨物
船を運航する会社勤務
め、石炭やセメントを運
ぶ専用船に乗り組み、全
国各地をまわった。その
後、中国、東南アジア、中
近東、豪州、欧州、北米
を廻るタンカーや自動車
兼撤積船に乗った。

会社で進んでい
ったのを機に生まれ里に
戻った。これまで「無意識」で
あったことが「意識」し
てくるからだ。
今はいい父・岩尾、
母・老子が日々の所作で
「人」には親切にしない



訪れる人を案内したくなる。お気に入りの場所、
「本宿川上流」

エッセイ